

第38回 世界遺産検定 マイスター試験
講評 および 学習方法

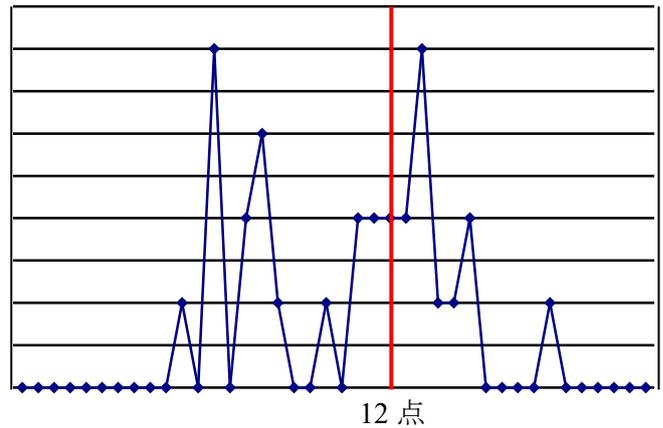
1. 実施概要 2. 認定点と分布 3. 問題 4. 総評 5. 各問の短評と学習法

1. 実施概要

検 定 日：2019年12月15日（日）
検定会場：東京・名古屋・大阪
検定時間：120分
解答形式：論述形式（記述）
申込人数：34名
受検人数：29名
認定者数：13名（認定率44.8%）

2. 認定点

認定点：12点（20点満点）
最高点：17.0点
最低点：5.5点



3. 問 題

1 次の語句を簡潔に説明しなさい。
1. バッファゾーン
2. 奈良文書
3. 登録基準 (v)

2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。
世界遺産基金 危機遺産リスト
教育事業計画 登録基準

3 2019年は、『パリのセーヌ河岸』に含まれるノートル・ダム大聖堂や、『琉球王国のグスク及び関連遺産群』の首里城跡に再建された正殿などが火災の被害にあい、文化財等の保護について注目が集まった。火災や自然災害への対策を含め世界遺産の保護には様々な課題が考えられるが、世界遺産の保護における課題を一つ取り上げ、その対策として考えられることを、具体的な遺産の事例を挙げながら、1,200字以内で論じなさい。

4. 総 評

今回は認定点に達した受検者と達しなかった受検者の間に大きな差があったように感じる。特に例年どの受検者も解けていた2で、根本的な誤解があったり、世界遺産条約の説明とは直接関係がない自分の意見を述べるなど、点を落とす受検者が多かった。1と2は独自の意見を述べるのではなく事実に基づき説明することが重要である。どのポイントを説明するのかわかると受検者の独自性は十分に判断できる。3でも受検者間の差が大きかった。また、1と2は高い得点を取っていた受検者が3では点が取れていなかったり、またその逆のケースも例年よりも多く見られたように感じた。バランスよく対策を行うことは容易ではないが、3ばかりに気負いすぎず対策を行ってもらいたい。

5. 各問の短評と学習法

1

短評：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「登録基準 (v)」では文化的景観にも触れている解答は点数が高くなった。「奈良文書」では、真正性に関する合意であることと、真正性が気候や風土、歴史、文化に即してとらえられるようになったことも書く必要がある。

学習法：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

短評：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。総評でも述べた通り、自分の意見を述べている解答が少なからずあった。また指定語句の「登録基準」などは世界遺産条約ではなく作業指針の中で内容が定められていることを誤解している解答もあった。ここでは世界遺産条約の目指している理念や目的と、それを運用していく上で作業指針などで定められていることなどを短い文章でまとめる必要がある。無形文化遺産条約などに言及する文字量的な余裕はないと考えられる。

学習法：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくとうい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えて**おき、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

短評：世界遺産に関するテーマについて、独自の意見を論理的に論ずる問題。今回は世界遺産の保護における課題について論じる問題であった。ノートル・ダム大聖堂や首里城正殿の火災があったため、それらの被害を具体例として挙げるものが多かったが、課題に対する独自の意見が述べられているものは少なかった。同じ火災の話から始まっている、気候変動の視点から世界遺産内での資源の利用や経済発展などを論じたものなどは独自の見解が述べられており高い点数となった。論述問題の場合は解答者の意見が見える解答が高い点数になる。採点者と解答の意見が合うかどうかは必要ではないため、いかに自身の意見を論理的に述べるができるか考えて解答する必要がある。また、解答中の改行や段落あけなどは、文章を書く上での基本でもあるので、ぜひ意識してもらいたい。

学習法：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくとうい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。